美しい県土づくりNEWS

2021年
4月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第201号
令和３年４月30日発行
編集　県土整備企画室

目次

- 2 令和３年度　県土整備部のミッション
- 2 全国からの応援職員と共に復旧・復興に取り組みます
- 3 令和３年度　県土整備部の幹部職員
- 4 「高田松原津波復興祈念公園」と「高田海岸（砂浜）」が供用開始及び一般開放しました！！！
- 6 県内寄港再開！おかえり「飛鳥Ⅱ」大船渡港寄港！！
- 7 「島越工区」が開通しました！
- 8 「国道343号渋民バイパス」と「国道342号白崖工区」が供用開始！
- 13 八幡平地域の冬期通行止め区間の開通のお知らせ
- 14 洪水から守ろうみんなの地域！～５月は水防月間です～

三陸復興

令和3年度県土整備部　新体制でスタート
～キーワードは「新ステージ」～

令和３年度の県土整備部は、中平部長のもと、全国から派遣された５名の応援職員と28名の新採用職員を加えた総勢753名の新しい体制でスタートしました。

今年度は、**「我が県土 支え育む 希望郷 『新ステージ』」**を組織のキャッチフレーズとし、

- 復興の**「新ステージ」**を支える
- 県土整備部発足から20年、**「新ステージ」**の始動

に取り組んでいきます。

今年度の県土整備部幹部職員
左から、杣まちづくり担当技監、小島副部長兼県土整備企画室長、中平県土整備部長、田中技監兼道路担当技監、幸野河川港湾担当技監

令和3年度　県土整備部のミッション

今年度は、次の３点を部の主なミッションとして業務に取り組みます。

１．復旧・復興事業を仕上げ、復興の新ステージを支える社会資本整備の推進
２．度重なる台風被害からの復旧と流域治水の取組や老朽化対策等による国土強靱化の推進
３．産業・観光振興や安全・安心な暮らしを支える良質な社会資本施設の整備と管理

これらのミッションを遂行するためには、工事の適切な進行管理、国土強靱化のための５か年加速化対策予算を活用した防災・減災対策や老朽化対策、地域の建設業の担い手確保、社会資本についての情報発信といった取組が重要です。

コロナ禍における県内の経済活動を下支えするため、県土整備部職員一丸となって、公共事業の着実な執行に取り組んでいきます。

全国からの応援職員と共に復旧・復興に取り組みます

東日本大震災津波からの復興、令和元年台風第 19 号からの復旧に当たっては、**発災以降、全国の自治体から継続的な人的支援をいただいています。**

４月１日に行った県土整備部の辞令交付式では、本庁に勤務いただく応援職員に対し、中平県土整備部長が辞令を交付し激励の言葉を述べました。

応援職員の皆さんは、本庁、広域振興局土木部等に配属され、復興道路等の整備、海岸保全施設の復旧等の県の復興関連業務、台風第 19 号災害に係る用地補償業務を支援していただきます。

令和３年度は、青森県、東京都、神奈川県、静岡県から５名の派遣をいただいています。

中平県土整備部長から派遣応援職員への辞令交付

令和3年度　県土整備部の幹部職員

県土整備部長　中平　善伸（なかひら　よしのぶ）

平成 13 年に土木部から県土整備部に組織が変わり 20 年の節目となります。
早坂トンネル着工、鷹生ダム定礎があった当時の職員が描いていた 20 年後の県土と今は何が実現し、そうでない所は何でしょうか。震災復興から次の 20 年の未来の県土について若い職員の皆さんはどんな姿をイメージしていますか。語り合いたいですね。構想でも描いておくことは大事で何かの契機に動き出すことがあります。今年度も楽しく明るくいきましょう。

（出身地：兵庫県西宮市、出生地：高知県梼原(ゆすはら)町）

技監兼道路担当技監　田中　隆司（たなか　りゅうじ）

ネットワーク（地域や人とのつながり、組織のつながりなど）、フットワーク（先を見据えつつ一歩踏み出すこと、タイムリーなホウレンソウなど）、ライフ・ワーク（自分や家族との時間も大事に）の３つのワークを大事に、復興の仕上げと、次の 10 年の県土づくりに取り組みたいと思います。よろしくお願いします。

出身地：盛岡市
趣　味：ランニング（16 年目）
心がけ：走った距離は裏切らない

副部長兼県土整備企画室長　小島　純（おじま　じゅん）

28 年ぶり２度目の県土整備部勤務です。
３月末に宮古市役所を訪ねた際、開通直後の宮古盛岡横断道路を通りました。その整備効果を目の当たりにしましたが、私が宮古土木事務所に勤務していた当時は、達曽部地区の用地取得など 106 号の高規格化に着手したばかりであったことを思い出し、感慨深いものがありました。
今年は皆さんの業務を下支えすることで、美しい県土づくり NEWS の充実に少しでも貢献できればと考えています。どうぞよろしくお願いします。

（出身は一関市大東町大原です。大原水かけ祭りに興味のある方はお声がけください。）

河川港湾担当技監　幸野　聖一（こうの　せいいち）

県職員生活 37 年目で、これまで様々な分野に携わってきましたが、建設技術振興課時代に認識した建設業の高齢化と入職者減少は、大きな課題と感じています。
県民生活を支える社会資本を守っていく担い手の確保に向け、若者に建設業の魅力を感じてもらえるよう取り組んでいきましょう。

出身地：盛岡市（居住歴：岩泉町、北上市、二戸市、大船渡市、奥州市）
趣味：マイカーでの旅行（コロナにつき遠出は自粛中）

まちづくり担当技監　杣　亨（そま　とおる）

４月から県土整備部に新設した「まちづくり担当技監」として都市計画、下水道及び建築住宅行政に関する業務を主に担当いたします。
人口減少や少子高齢化の急速な進行、頻発・激甚化する自然災害の発生など、社会を取り巻く環境が大きく変化しておりますが、市町村との連携を大事にしながら持続的かつ安全で暮らしやすい「まちづくり」に取り組んでいきたいと考えています。
「健康第一！　明るく！　元気で！　笑顔で！」をモットーとしております。
どうぞよろしくお願いいたします。

高田松原津波復興祈念公園と高田海岸（砂浜）が供用開始及び一般開放しました！！！

沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター

県が整備を進めてきた、**『高田松原津波復興祈念公園』と『高田海岸（砂浜）』が令和 3 年 4 月 1 日（木）14 時に「公園の供用開始」と「砂浜の一般開放」しました。**

当日は 13 時から高田海岸防潮堤の天端でセレモニーを開催しました。

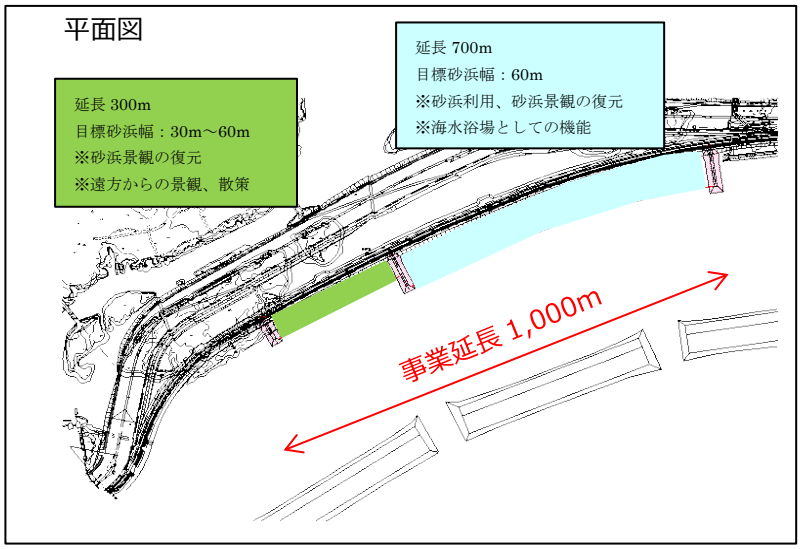
今回の供用開始及び一般開放により、追悼・鎮魂の場、震災の伝承・復興の発信の場、そして賑わいの場として多くの皆様に利用されることが期待されます。

▲テープカットの様子

▲砂浜一般開放の様子

現場ニュース

高田海岸（砂浜）



安全情報伝達施設

シャワー棟・トイレ棟

砂浜再生事業概要

○延長　　L=1,000m

○砂浜幅　　30m~60m（海水浴利用区間は 60m で整備）

○全体事業費　約 40 億円

○主要施設　　砂浜のほか安全情報伝達施設、トイレ棟・シャワー棟（令和 3 年 7 月供用開始予定）

県内寄港再開！

おかえり「飛鳥Ⅱ」　大船渡港寄港!!

港湾課

4月 11 日(日)、郵船クルーズ㈱が運航するクルーズ船「飛鳥Ⅱ(全長 241 ㍍、総トン数 50,142 ㌧、乗客定員 872 人)」が大船渡港に寄港しました。県内港湾へのクルーズ船寄港は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020 年においては全て中止されており、2019 年9月以来約1年7カ月ぶりの寄港受入再開となりました。

飛鳥Ⅱは、乗客 144 名を乗せ、午前７時 10 分に大船渡港野々田岸壁に着岸しました。新型コロナウイルス感染症対策として港内への立ち入りを関係者のみに限定したため、大勢の市民による寄港歓迎は叶いませんでしたが、港外にはその姿を一目見ようと市内外から多くの人が駆け付けました。出港に際しては、大船渡高校吹奏楽部が寄港への感謝を込めた演奏を披露し、飛鳥Ⅱの出港を見届けました。

県ではコロナ禍以降、県内港湾における国内クルーズ船の受入に当たっては、船社や衛生主管部局、港湾所在市などの関係機関と連携して、安心・安全な受入態勢の確立に努めています。今回の寄港に際しても、船社において乗員・乗客全員に対して乗船前に PCR 検査を実施することにより感染者の乗船リスクを減らし、船内では換気・消毒・ソーシャルディスタンスの確保・サーモグラフィ等による検温等を実施。また、寄港地観光ツアーでも専用バスへの乗車を定員の半分程度に制限する等、感染防止対策を徹底して行いました。飛鳥Ⅱは、無事本県での全行程を終え、午後５時に大船渡港を出港しました。その後、４月 12 日（月）の小名浜港寄港を経て、４月 13 日（火）に横浜港に帰港しました。

今年度、岩手県内港湾へのクルーズ船寄港は 10 回以上と見込まれており、今後も港湾所在市や関係機関との連携による感染防止対策への配慮を行い、安全・安心な寄港受入に努めていきます。

寄港を歓迎する綾里大権現

乗客を出迎えるおおふなトン

キッチンカーでのおもてなし

大船渡高校吹奏楽部によるお見送り

現場ニュース

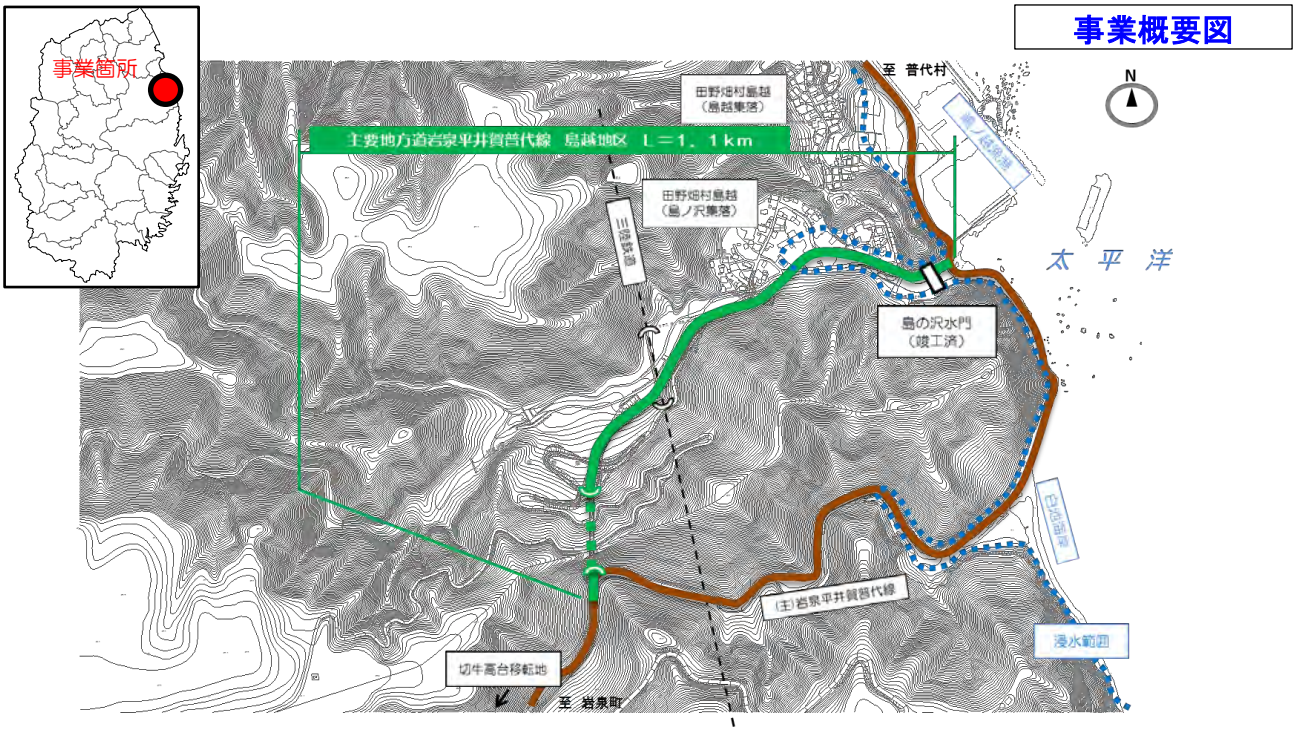
【まちづくり連携道路整備事業】主要地方道岩泉平井賀普代線
島越工区が開通しました！

沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター

県がまちづくり連携道路整備事業により整備を進めてきた、主要地方道岩泉平井賀普代線「島越工区」が、令和３年３月 31 日に開通しました。

本路線の沿線にある島ノ沢集落（約３０戸）は、東日本大震災津波で、県道が津波により流失し、長期間に渡り孤立しました。

このことから、島ノ沢集落を含む島越地区のまちづくりと連携しながら津波浸水区域を回避する目的で整備を進めてきました。



【事業期間等】
事業期間　平成２４年度～令和２年度　　総事業費　約 22 億円
事業延長　1，100m　　幅員　車道幅員 5.5m(全幅 7.0m)
主要構造物　島の沢トンネル 189m、島の沢跨線橋 37m

被災状況(2011. 3)

島の沢トンネル

島の沢跨線橋

【復興支援道路】

国道343号渋民（しぶたみ）バイパスと国道342号白崖（しらがけ）工区が供用開始！

県南広域振興局土木部一関土木センター

一関地域で「復興支援道路」として整備を進めてきた一般国道343号渋民バイパス（L=5.5km）が令和３年３月28日（日）に、一般国道342号白崖工区（L=2.44km）が令和３年３月13日（土）に、東日本大震災津波から10年となる節目にあわせ、暫定供用開始となりました。

両路線とも、沿岸と内陸を結ぶ主要幹線道路であり、災害時には優先的に通行を確保する緊急輸送道路、また、東日本大震災津波で被災した沿岸地域の復旧・復興を支援する復興支援道路に位置付けられています。

今後は、残った一部舗装工事や取付道路工事等を施工し、令和３年度内の１日も早い完成を目指し、事業を進めていきます。

一般国道343号渋民バイパス　〔令和３年３月28日（日）供用開始〕

開通式典の様子

▲くす玉開被及びテープカットの様子

▲供用開始のパレード

▲式辞　佐々木県南広域振興局長

▲祝辞　勝部一関市長

渋民工区のルート

整備前・整備後の比較

▲整備前：線形不良、幅員狭小

▲整備後：幅員を確保し歩道を整備

【整備効果】

渋民バイパスの整備により、摺沢地区を経由する場合と比較して、距離にして約5km、時間にして約 10 分の短縮が見込まれ、急勾配・線形不良等の通行支障箇所の解消、歩道設置による安全性・快適性の向上などが期待されます。

【事業概要】（H27 事業採択）

(1)計画延長：5.5km　(2)計画幅員：全体 12.0m(うち車道部 6.5m)
(3)主要構造物：舘下（たてした）トンネル　311m、渋民大橋　54m
(4)全体事業費：約 50 億円

トンネル施工時の状況

館下トンネル貫通（2020/4/18）

館下トンネル覆工コンクリート施工（2020/6/15）

開通記念歩け歩け大会の様子

今回の供用開始に先立ち、地元の渋民体育協会により３月 27 日（土）に「渋民バイパス開通記念歩け歩け大会」が開催され、約 100 人が参加するなど地域一体で渋民バイパスの開通をお祝いしました。

管内復興支援道路事業及び除雪パネル展の開催

開通式当日には、一関管内で施工している復興支援道路の紹介や、道路除雪業務の実状を示したパネル展示ブースを会場に併設し、道路整備の重要性や建設業者の苦労などを伝えました。

一般国道342号白崖工区　〔令和３年３月13日（土）部分供用開始〕

開通式典の様子

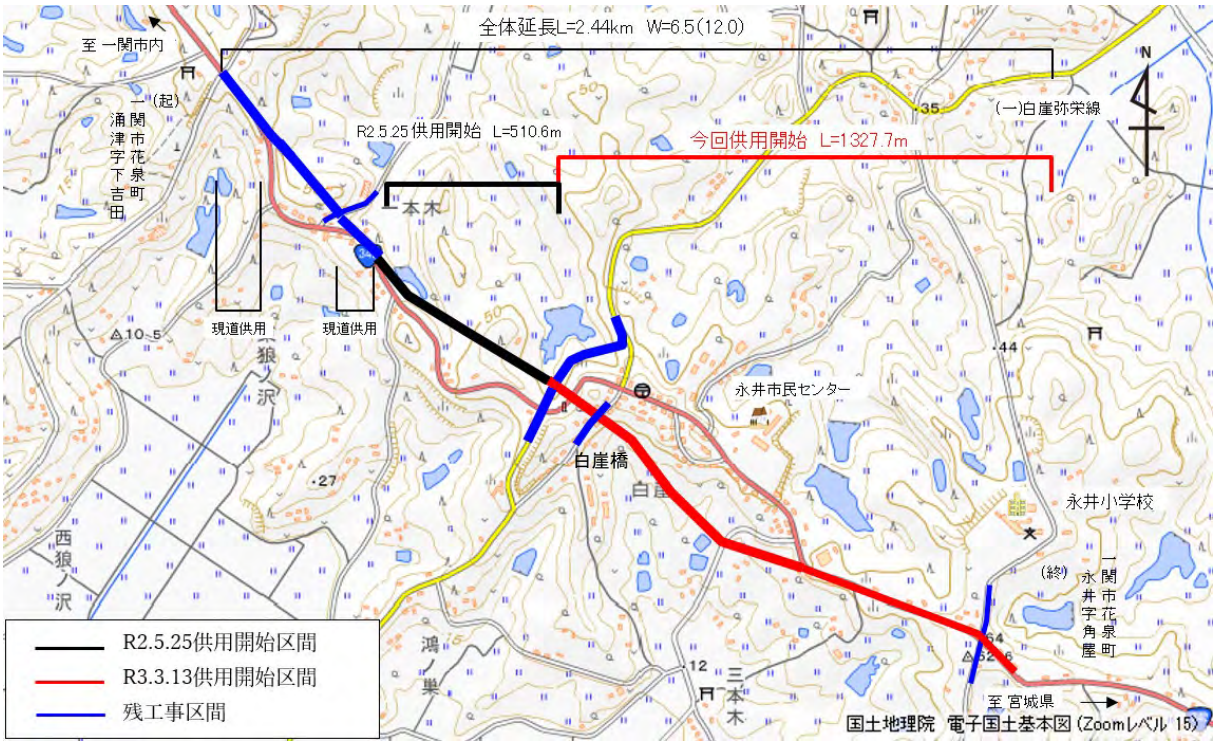
▲くす玉開被及びテープカットの様子

▲供用開始のパレード

▲式辞　佐々木県南広域振興局長

▲祝辞　勝部一関市長

白崖バイパスのルート



白崖工区の今回供用区間

今回のバイパス区間の供用により、白崖工区の主たる目的である、線形不良、幅員狭小といった市街地を通る現道の隘路区間が解消されました。

白崖橋付近から宮城県方面を望む

整備前・整備後の比較

▲整備前：狭い道路を大型車両が往来

▲整備後：隘路の解消と歩道設置

【事業効果】

今回の供用開始により、通行支障箇所が解消され、約 300mの距離短縮並びに約 1 分半の走行時間短縮となるほか、歩道設置による歩行者の安全性の向上が期待されます。

また、物流機能の向上による産業振興、観光地へのアクセス向上、県際交流拡大が期待されます.

【事業概要】（H24 事業採択）

(1)計画延長：2.44km　(2)計画幅員：全体 12.0m(うち車道部 6.5m)
(3)主要構造物：市道白崖橋（橋長 18.7m　幅員 4.0m）
(4)全体事業費：約４２億円

八幡平地域の冬期通行止め区間の開通のお知らせ

盛岡広域振興局土木部岩手土木センター

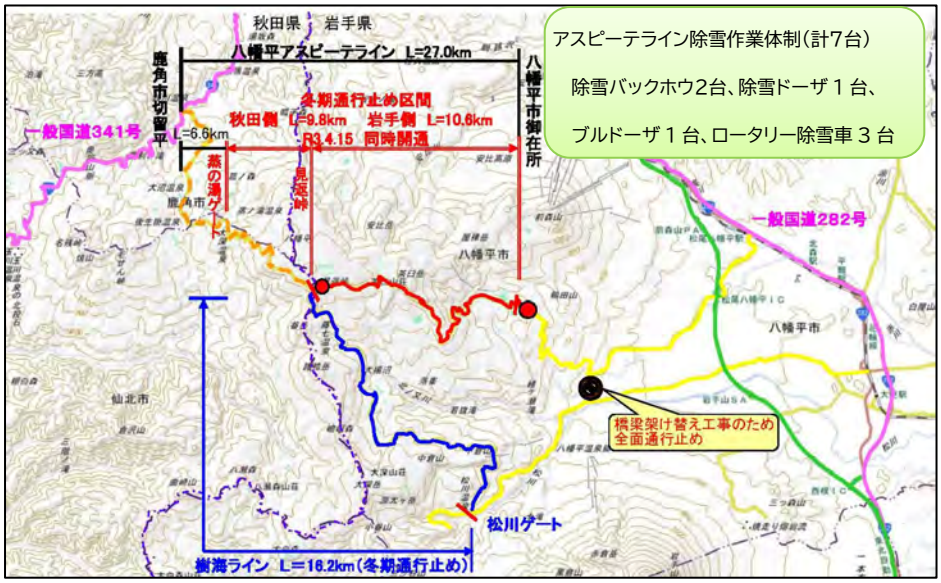
岩手県と秋田県にまたがる八幡平は、十和田八幡平国立公園に指定されており、周辺には神秘的な自然の風景が広がっています。

その八幡平に向かう県道２路線は、積雪により冬期間通行止めとなっていましたが、３月に入り除雪作業を開始し、４月を迎え除雪作業が無事終わり、開通しました。

除雪作業により形成された「雪の回廊」は、アスピーテラインにおいては最大 6.5m程、樹海ラインにおいては最大 9.5m程の高さとなっており、５月中旬頃まで見られます。

安全に通行していただくため、天候等により通行止めとなる場合がありますので、最新情報をご確認のうえ、ドライブをお楽しみください。

路線名	開通日	備考
大更八幡平線 （アスピーテライン）	令和３年4月 15 日(木) 10 時	しばらくの間は、17:00～翌朝 8:30 夜間通行止めです。 その他、天候により通行止めとなる場合があります。
八幡平公園線 （樹海ライン）	令和３年４月 23 日(金) 10 時	しばらくの間は、17:00～翌朝 8:30 夜間通行止めです。 その他、天候により通行止めとなる場合があります。



アスピーテライン除雪作業体制（計7台）
除雪バックホウ2台、除雪ドーザ１台、
ブルドーザ１台、ロータリー除雪車３台

除雪作業の様子

アスピーテラインの開通に併せて、「桜と雪の回廊・八幡平ドラゴンアイ観光キャンペーン 2021」を開催しています。

お知らせ

洪水から守ろうみんなの地域！

～5月は水防月間です～

河川課

私達の住んでいる日本は、雨量が多く、急こう配の河川が多い等の条件により、洪水が発生しやすい危険性を持っています。本県を含め各地域では、昔から生命や財産を水害から守るため治水対策が行われていますが、多くの費用と長い期間が必要とされるので、まだまだ水害を根絶するには至っておりません。

そこで、機敏な対応で水害を未然に防ぎ、また被害を少なくする「水防活動」が自分たちの地域を守るうえで重要な役割を担っています。

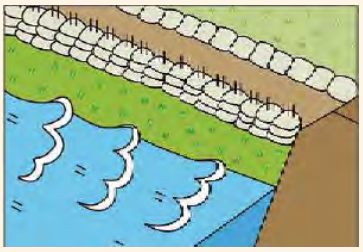
水防活動とは？

水防活動とは、水害の発生を警戒したり、土のうなどで水が溢れるのを防ぐ活動です。堤防などの能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水が発生することもあるため、それを事前に防ぐための活動はとても重要なものとなっています。また、水防活動は水害発生時のみならず、事前に水防に必要な道具が不足していないか点検を行い、河川の巡視をして、水防活動時に危険が無いか確認を行うなど、日頃からの備えがとても重要です。

▲令和２年７月12日～13日
一戸町消防団活動状況（馬淵川左岸）

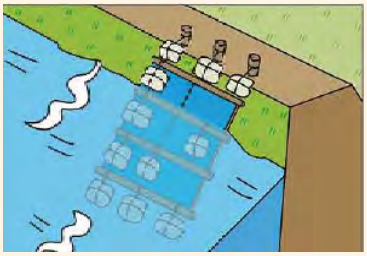
水防工法について

水害が発生しそうな場合、堤防の決壊を未然に防いだり、水害を最小限に食い止めることを目的に、状況に応じて下図に示すような最適な水防工法を実施します。



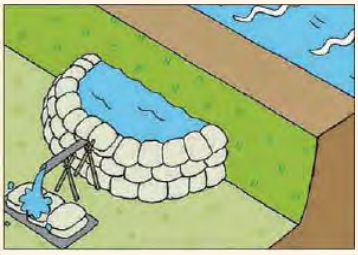
■積み土のう工法

堤防の上に土のうを積み上げて、水が堤防を越えるのを防ぐ工法で、水防工法の基本ともいえる工法です。ひとつの土のうには、20～30㎏の土や砂が詰められ、様々な工法にも使用されています。



■シート張り工法

水の流れで堤防が削り取られたり、水が漏れたりしないように、防水シート（マット・畳等）を張って堤防を守ります。



■月の輪工法

堤防の裏側に水が漏れだしたとき、半円形に土のうを積んで、川の水位と漏れた場所との水位の差を縮めて圧力を弱め、水漏れが広がるのを防ぎます。